

## ○閉会挨拶

(公社) 被害者支援センターやまなし理事長 金丸 康信



皆さんこんにちは、被害者支援センターやまなしの理事長を仰せつかっております金丸でございます。今日は、犯罪被害者週間山梨大会に、大勢の皆様にご出席をいただき、最後までお聞きいただきまして、誠にありがとうございました。

今日のプログラムであります基調講演での岩城順子様のお話には、本当に私も感銘を受けました。人生にはいろいろつらいことがいっぱいあるわけですが、その中でも自分のこどもに先立たれるくらいつらいことはないのではないかと考えておりました、それだけは勘弁してほしいと、日頃から願っているところであります。

岩城さんの場合は、大切な息子さんを病気ではなくて、本当に訳が分からない理不尽な暴力で失ったということでもあります。その悲しみを乗り越えて、大学に入り直して資格を取り、そして、被害者支援の先頭に立って頑張っておられる姿、誠に本当にすごいことだというふうに思います。人生には本当にいろいろなことがあるわけですが、岩城さんのような方、本当にすごいなと思いますし、これから我々も見習っていかなければならないと思っています。

岩城さんの講演の中で、短い一言でありましたけれども、マスコミの報道によって、また傷つけられたという一言ですが、私は大学を出てから、ずっとテレビ局に、マスコミの報道の仕事に携わってきた者の1人として、大変胸に腹に響いた言葉でありました。

マスコミの方でも、いわゆる被害者の家に大勢が押しかけて質問攻めにしたりするメディアスクラムという状況を避けるために、いろいろな反省をして自主規制をしているわけですが、被害者の立場から言えば、それは十分なものではないということでありまして、我々もマスコミの報道、そして被害者に対するいろいろな応接の仕方を本当に考えていかなければならないと改めて思ったところであります。

世の中を見ますと人を殺してみたかったとか、何でもかんでも刑務所に入りたかったというような訳の分からない理由で、とんでもない犯罪を犯す者が全く珍しくないような世の中です。そうした犯罪は無くすことはできませんけれども、我々の努力で被害者の痛みは少しでも減らせることができればいいのではないかと思います。そのためには、行政だけでもできない、警察だけでもできない、我々民間だけでもできないということですので、ぜひ御列席の皆様力を合わせて、3者が力を合わせて取り組んでいくことが大事だと思いますので、今後とも皆様方の一層の御支援をお願いしたいと思います。

今日は1日、本当にありがとうございました。